

スポーツ指導論		講義	准教授 山口 重信	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目、スポーツトレーナーコースの選択必修科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11321101 11532108 12220116 12532108 13220122 13532108	

1. 授業のねらい・概要

スポーツには事故はつきものであり、指導者が法律上の責任を問われる場合がある。そうした事態を未然に防ぐためには、スポーツ指導者はさまざまな知識を身につけて、安全かつ楽しくスポーツに取り組める環境を作ることが大切である。

本講義は、財団法人日本スポーツ協会の「公認スポーツ指導者制度」で定めるカリキュラムに基づいて行う。スポーツ指導者に必要な知識を身につけ、「スポーツを安全に、正しく、楽しく」指導し、「スポーツの本質的な楽しさ、素晴らしさ」を伝えることができる人材に育ってほしいと考えている。

2. 授業の進め方

公認スポーツ指導者養成テキストを参考に進めていく。講義内容に関連したビデオの鑑賞なども行う。

また、与えた課題についてのレポートを提出してもらい授業内容の理解度を確認しながら展開していく。

3. 授業計画

1. ガイダンス～本講義の概要説明	9. 長期的な視野に立った競技者育成
2. 指導者の役割とは	10. 世界の頂点をめざすアスリートの育成・強化の在り方
3. 安全管理システムの構築	11. スポーツ事故のリスクマネジメント
4. プレイヤーと指導者の望ましい関係	12. スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任
5. コーチングスキル	13. スポーツと人権
6. コーチングとティーチング	14. スポーツ仲裁
7. ミーティングの方法	15. まとめ
8. ミーティング実施のポイント	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前回の講義内容を復習し、理解して自分の言葉で表現できるようにしておく。なお事前課題があれば予習をしておくこと。これらの学修には、2時間程度が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート提出の際、解答などを説明する。

6. 授業における学修の到達目標

スポーツ指導者としての正しい知識を身につけて、指導現場で活かせるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取り組み姿勢（50%）およびレポートの結果（50%）を総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

リファレンスブック

9. 受講上の留意事項

前期に行われる「コーチング論」の単位取得後の受講が望ましい。

受講時間数も単位修得に必要とされる科目のため、講義回数の3分の1以上欠席した場合は単位を与えない。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。